

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

698-736

事務事業名	天龍峡保存管理計画策定事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目	1	7	1	4	14	1	
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	63 地域資産の保存継承											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	必要	関連計画条例等		文化財保護法				
		事業期間	17	年度～	18	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	名勝天龍峡指定地	名勝天龍峡の総面積 (㎡)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			236095	236095			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	市の天龍峡に関する総合的な計画の策定に基づき個別の活用エリアを選択決定し、安全対策・保存管理方針を策定し、飯田市固有の財産である名勝天龍峡の保護・利活用・再周知を図る。	設定した活用エリア(個)	18目標	10	最終目標	5	19
			18実績	5	19目標		↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	昭和9年名勝に指定されて以来、飯田市の観光のシンボリック存在であった。その間、舟の発着所・遊歩道・吊り橋・ホテルなどの施設を整備してきたが、昨年来発生し続けている崖の崩落や落石により、安全確保が難しくなっている。そこで、名勝天龍峡に関して、よりよい活用を目指し保存管理計画を策定する。その中には、周辺の動植物の棲息状況や十勝・石碑その他の環境を含めた再評価を行うとともに、景観にも配慮した計画とする。観光課とともに実施していく。(予算は産経部)	・第2回保存管理計画策定委員会(8/24)第3回(11/15)第4回(2/14)第5回(3/24)実施 ・地域住民フォーラム(12/13)実施 ・文化庁指導(6/15・10/27・11/7・2/20～21・3/15)実施 ・保存管理計画策定書掲載の図版等の必要性が策定委員会より提出されたため、18年度は図面類の印刷を行なった。	委員会(回) ワーキング(回)	4 1
		・保存管理計画策定書の印刷(観光課主管) ・管理・活用の主体は観光課であるが、名勝の保護に責任を有する立場で連携し対応する。		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	1,000	
	起債		
	その他		
	一般財源	1,000	
	事業費計(A)	2,000	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,500	19年度 320
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	5,364	1,144
	トータルコストA+B	7,364	1,144

特定財源内訳や補足事項	史跡等保存管理計画策定費(国庫補助 文化庁) 50%
-------------	----------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	保存・継承される	保存・継承されている地域資産の数。	現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	520
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成15年6月に船着き場付近の崖が崩落し、観光の目玉である天龍舟下りが中止。遊歩道でも落石が発生。名勝指定地内の現状変更は文化庁許可が必要であり、復旧・整備等に関して対応が遅れ気味になっている。 地元としても整備推進協議会を組織し、文化庁からも本事業実施の指導を受けている。	天龍峡は名勝であるとともに、飯田市の観光のシンボルとなっているが、観光が体験型に移りつつあり、新たな観光地としての展開が必要となっている。 名勝内にある十勝(景観)や石碑の再評価、景観へ配慮した安全対策の取り組みが必要とされている。	平成16年6月に天龍峡観光開発整備推進協議会より「天龍峡遊歩道、舟付き場付近の落石、崩落対策に関する要望書」が提出された。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	刊行にあたっては文化庁の内容確認が必要となるため、文化庁と緊密に連携を図りながら実施する。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	